



## コロナ時代の人の越境をめぐる政策と技術

研究代表者：明石 純一（筑波大学人文社会系）

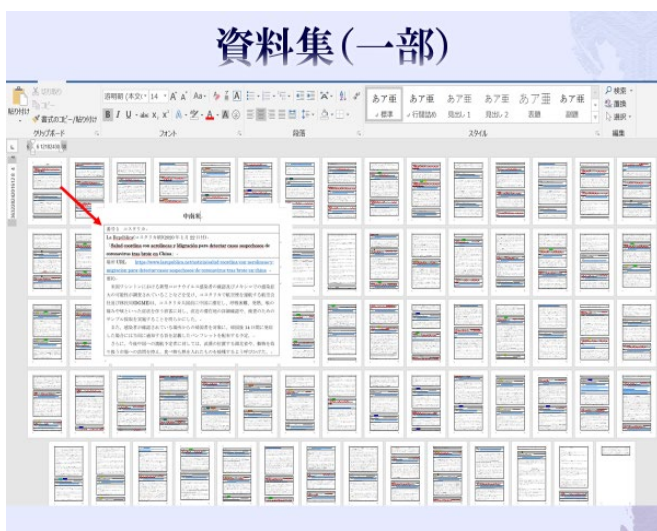
1) 研究期間 中長期（2020年5月25日～2021年3月31日）

### 2) 応募時の目的・目標・達成イメージなど

新型コロナウイルスの世界的感染拡大が、国境を越える人の往来や国際移住者にどのような影響を及ぼすのか、かつての SARS や MARS などのインパクトとも比較し、明らかにすることが目的とされた。また、人の国際移動・移住に対する政策的対応や技術についての情報を収集し、新型コロナウイルスがもたらす危機的状況への対応策の検討や、移民研究（Migration Studies）分野における今後の調査の推進に有用なデータベースの構築が目指された。

### 3) 本プログラムで実施した研究の内容と成果

新型コロナウイルスと人の国際移動・移住に関連する文献調査によれば、人の越境が大幅に制約されてきたのは事実であるが、陰性証明、ワクチンの事前接種、入国時の検査・検疫、その後の隔離や滞在時の位置情報提供といった諸条件のもと、人々の海外渡航は一定の範囲で認められる。また、一般にアジアでは厳格な渡航制限が実施されてきたなど、国や地域により対応が異なることも明らかになっている。本事業では、中国、台湾、インド、中南米等の情勢に関する政府文書や報道資料を収集し、翻訳のうえ時系列で整理している。欧米と異なり動静がリアルタイムには把握しにくい国や地域の国境及び入国管理の動向を中心とする情報のウェブアーカイブ化を進めることで、コロナ禍における移民研究の基盤構築の一助としている（参考図1）。



参考図 1



参考図 2

URL：[https://www.globalmigration-net.com/fight\\_covid19/](https://www.globalmigration-net.com/fight_covid19/)

国際移住者への影響については、1：感染リスク（情報及び医療へのアクセス、生活及び就労環境、職種など）、2：生活・生計への影響（雇用条件、帰国制限、公的保障の権利など）、3：心理的



不安・ストレス（ソーシャルディスタンス、教育及び家庭環境、ソーシャルメディア上の偏見など）といった面で整理、考察を行った。これらの検討結果は、ICR（筑波大学人文社会国際比較研究機構）主催のセミナー「新型コロナウイルス感染症と人文・社会科学2」（2021年2月）において報告され、その内容は『不平等セミナー報告書』に掲載されている。総じて、新型コロナウイルスの感染拡大は、国際移住者の構造的脆弱性を増したものであり、ホスト社会のレジリエンスという観点からは、国際移住者の社会関係資本を強化する公的制度の整備や市民社会による支援の重要性が確認された。こうした取り組みの強化は、SDGs、「移住グローバルコンパクト」、「難民グローバルコンパクト」の趣旨からも、推進されるべきである。

さらに本事業では、コロナ禍における本学留学生の意識調査が実施され、その成果は、研究協力者により、「コロナ時代の留学生支援を考える：筑波大学の新型コロナに挑む『知』活用プロジェクトの一事例」として学会において発表されている（2020年12月）。また上記の内容は、留学生ほか外国人材の就職活動への対策をテーマとしたワークショップ「コロナ時代の留学生支援を考える」（2020年12月）においても共有され（前頁の参考図2）、JASSO やリクルートジョブセンターなどの専門家との意見交換が行われた。あわせて、「緊急ウェビナー：緊急事態宣言下の日本における移住者支援を考える」（2021年1月）や移民フォーラム「外国にルーツをもつ子どもを取りまく学校や家庭における多言語コミュニケーション」（2021年1月）の機会では、「ニューノーマル」時代の移民研究ならびに社会連携のあり方に関して国内外の有識者や民間の支援者との対話がなされた。上記のイベントは、社会貢献を念頭においた学際的共同研究推進のための基盤構築に資するものであった。

#### 4) 研究業績・研究広報

- 「コロナ時代の留学生支援を考える：筑波大学の新型コロナに挑む『知』活用プロジェクトの一事例」移民政策学会（2020年12月12日オンライン開催）※報告者は研究メンバーの金井達也（筑波大学大学院博士後期課程）。
- 「全体へのコメント」笹川平和財団、ヒューライツ大阪（アジア・太平洋人権情報センター）、ヒューマンライツ・ワーキンググループ共催「緊急ウェビナー：緊急事態宣言下の日本における移住者支援を考える」（2021年1月29日オンライン開催）  
<https://www.spf.org/asia-peace/news/20210427.html>
- 「コロナ禍のマイグレーションを考える：ハイモビリティ時代におけるレジエントな社会の諸条件」ICR セミナー「新型コロナウイルス感染症と人文・社会科学2」（2021年2月8日オンライン開催）※筑波大学人文社会国際比較研究機構（2021年3月）『不平等セミナー報告書』Vol.2、27-34頁。

#### 5) 最新の成果・情報

筑波大学「知」活用プログラムウェブサイト>明石 純一

[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19/akashi/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/akashi/)

インタビュー記事

[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19\\_interview/akashi/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19_interview/akashi/)